

## 「か買物もの難民」という言葉を知っていますか？

「買物難民」とは『流通機能や交通網の弱体化とともに、食料品等の日常の買物が困難な状況に置かれている人々』をいいます。別名「買物弱者」とも呼ばれています。

高齢化の進んだ過疎地を主として、「買物難民」の問題は深刻化しています。

なんと日常の買物に困っている人の数は、国内で825万人（2018年農林水産省調査）といわれています。

にわかに信じがたいかもしれませんが、シャッターだらけの商店街、いつの間にか閉めてしまったスーパーマーケット、そこに暮らす高齢者や障がいを持つ人たちを想像してみると、この問題は現実味を帯びてくるはずです。

また、これは過疎地だけの話ではありません。都市部（特に郊外）でもあらわれつつあります。自動車ありきの生活を送り、いわゆる道沿いの店舗に頼った日常を送る人にとって、「買物難民」は他人事ではなく、明日の自分かもしれません。

「買物難民」は更に増加していくものと懸念されます。現在は近隣のスーパーや商店街が撤退しても“車で郊外の店舗に買物に行けるから大丈夫”という人がおられるでしょう。しかし、将来、健康上や経済上の理由から車を手放すことになり、「買物難民」になる、これは、すべての人が自分のことだと思って取り組むべき問題ではないでしょうか。

全国で「買物難民」解消の為の取組みが始まっています。

- ・車による移動販売
- ・宅配、買物サービス
- ・移動手段の提供など



「買物難民」の解消を進めていくことは、住む人の生きる権利を守っていくこと。生きる権利を守ることが一番大切な、人権だと思います。